

第5期岐阜県障がい者総合支援プラン策定に係る意見

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
1	I 安心して暮らせる社会環境づくり	I 障がい者の人権尊重と心のバリアフリーの推進	(1)改正障害者差別解消法の推進		・能登や熊本では、障がいのある人が避難所へ行くと「向こうへ行ってくれ」と言われ避難所を利用できなかったケースがあると聞いている。それは障がいのある人への理解不足であり、偏見や差別がなくなるよう日頃から取り組んでいただきたい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・岐阜県脊髄損傷者協会
2				○	・「視覚障がい=何もできない」というイメージがあるかもしれないが、そのイメージを払拭し、就労の場を広げていけるとよい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人岐阜アソシア
3					・会の交流会を定期的開催しているが、介助犬がいると未だに入店を断られたり、すぐに承諾してもらえなかったりすることが多い。身体障害者補助犬法により、補助犬同伴の受け入れが義務付けられているはずなのに、理解されていない。県で、もっと普及啓発を行っていただきたい。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
4				○	・聴覚に障がいのある人へは、職場に合った支援方法、職種に合った支援方法が必要であり、どうするとよいかを職場ごとで考えてもらいたい。また、民間事業者は、まだ意識が低いところがあるため、県において障がいに対する啓発活動をお願いしたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
5					・車椅子を利用していると、未だにタクシーの乗車拒否があるため、普及啓発をしていただきたい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
6			(2)岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例の推進		・差別や偏見については、学齢期の教育が大切。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
7					・クラスに障がいのある子がいた方が、自然に理解が深まるため、共生社会にはいいのではないか。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・岐阜県脊髄損傷者協会
8					・障害者週間に大会を行う等障害者週間のPRを行い、県民への周知を強化できるとよい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・岐阜県脊髄損傷者協会
9				○	・耳が聞こえなくても、一住民であり、市役所等においても、他の住民同様対面でのやりとりを望んでいる。遠隔手話があると言われても、使いづらい(岐阜市、飛騨市も導入しているが使用実績がない)。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
10				○	・行政機関に、ひとまず手話通訳者がいればよい(遠隔でも手話通訳者を配置している)というような風潮になっているが、そうではない。たとえば地名や地域の現状など背景を知っている方に手話通訳をしてもらいたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
11					・全体的にIT化が進んでいる。ITが普及することはよいことではあるが、何でもIT化すればよいというわけではない。たとえば手話通訳の場合、対面でないと分からないこともあり、遠隔手話ではなく手話通訳者の配置をしていただきたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
12					・障がいについては、学校でも教えていると思うが、難病患者への理解を深めるため、難病についても学校で教えてほしい。	特定非営利活動法人岐阜県難病 団体連絡協議会
13					・ヘルプマークは認知度が高く、自分も着けていると電車で席を譲ってもらえる。障がいに関するマークはたくさんあるが、あるだけでは実際役に立たない。認知度が上がって、初めて支援につながると思うため、障がいに関する全てのマークについて普及啓発を行ってほしい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
14					・交流した通常の小学校に通う児童から手紙が届くそうだが、そこには「〇〇さん、頑張って」と書いてあるという。本人に悪気がないことは分かっているが、「障がい=かわいそう、大変」というイメージで同情の気持ちが強い。これでは、意味をなしていないのでは。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
15					・現在は、学校間交流や通常学級と特殊学級の交流等が行われているが、本来は別々のところからではなく、同じ場所で交流（学ぶ）することが必要。また月に1回や年に数回交流するだけでは、もはや交流とはいえない。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
16					・障がいのある人は特別ではなく、普通の人と同じ存在として扱ってほしい。その前提のもと、障がいのある人が普通に生活するためにはどうすればよいかという視点で考えてもらいたい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
17					・一目で、言語の内容を理解しにくいと分かるような失語症用のヘルプマークがあるとよい。	岐阜県失語症友の会
18					・子どもの頃から、障がいのある子（人）との交流する機会をつくってほしい。そうすれば、障がいのある人への理解が深まる。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
19				○	・インクルーシブ教育というと、学校教育がメインになっているかと思うが、保育・幼児の方も大切であり、保育にも重点を置いた取組を行っていただきたい。プランの項目も「インクルーシブ教育」ではなく「インクルーシブ保育・教育」とすべきではないか。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
20					・市町村によっては、就園できずに就学する子もいると聞いている。偏見のない幼児期に、純粋に仲間として過ごし、良さに気づきながら育っていけるとよい。就園から接するのと、就学から接するのでは、大きな理解の差がある。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
21					・市町村によって、インクルーシブ保育研修が様々。インクルーシブやインクルージョンといった考え方が、統一的に市町村にも浸透するとよい。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
22				○	・特に災害時等が心配なため、地域の人に知ってもらいたいという気持ちがある。地域とつながる機会があるとよい。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
23					・地域の学校とも交流したいが、近年受入れてもらえない。小学校ぐらいまでに交流できると差別解消にもつながると考える。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
24					・閉じ込め症候群の状態にある人は、全く何も分かっていないわけではない。発しないだけで、何でも分かっているという前提で接してほしい。そうすれば理不尽なハラスメントがなくなる。皆の意識の変革が必要であり、意識があるということを皆に知ってもらいたい（周知してほしい）。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
25					・学校教育が重要であり、通常教育の中で、福祉教育を積極的にしていただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
26					・学校間交流はあるが、たとえば特別支援学校と小学校等が一時的に交流するだけでは、「自分とは違う人がいるんだな」という感覚にしかならず、障がいに関する理解にはつながらない。日常的にふれあうことが必要。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
27				○	・先生や福祉職員の中にも、障がいのある人に対し、悪気なく上から目線の発言をする人が多い。それは対等にみていないからだ。障がいのある人も同じ人間として尊重されるべきであり、意識改革が必要。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
28					・大人になると「差別をなくす」というような感じになるため、柔軟に対応できる義務教育時代に段階的に障がいを知ってもらい「差別をうまない」という形にしなければならない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
29					・学校でも、障がいに関する教育は行われているが、学校単位で実績や取り組む熱量に差があるため、改善する必要がある。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
30					・昔であれば、地域で受入れ、自然と接していたが、現在は接する機会もなくなっている。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
31					・4月2日の世界自閉症啓発デーには、もっと教育委員会にも力を入れていただきたい。	岐阜県自閉症協会
32					・精神障がい者は、急に大きな声を出したり、殴りかかってきたりするイメージがあり、怖いと思っている人がたくさんいる。そういう人もいるが一時的な行動であり、普段は落ち着いている。偏見をなくしてほしい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
33					・令和4年度から、高校の保健体育の教科書で40年ぶりに精神疾患に関する記述が復活した。学校での教育は、精神障がい者への差別解消と家族がなった時に驚かなくてすむという両方の観点で必要。当会も授業で話をする等の協力はできるため、積極的に行っていただきたい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
34					・日本国内で席を譲ってもらえる等の優遇が受けられるため、中国の旅行会社が、ヘルプマークの貸出を行っている聞いた（実際浅草に行った際に、中国人旅行者のグループがみんなヘルプマークをつけていた）。本来の趣旨と異なる使用が横行しており残念。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
35					・先日、名古屋市内のデパートのベンチに元気な外国人たち（旅行者と思われる）が長時間座っており、ヘルプマークをつけている人が座ることができなかった。日本国内での認知度は高まっているが、外国人へも周知してほしい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
36					・配慮が必要な人だと思われたくないとの思いから、もらいに行くのが恥ずかしいと思う人やヘルプマークをつけない人が一定数いる。つけないと思わなくてもよいような社会になってほしい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
37					・未だに公共施設職員の障がいに対する理解不足を感じることもある。意識醸成が必要。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
38			(3) 障がい者の虐待防止、権利・利益の保護		・施設や病院へ入所・入院する際は保証人が必要。頼れる人がいない場合は、高い費用を払って民間事業者には保証人になってもらっていると聞いている。お金がある人ならまだ利用できるが、お金がない人はどうすればよいのか。全国的な問題であり、公的なところで保証してもらえるような制度があるとよい。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
39					・聴覚に障がいのある人は、たとえばグループでの会話に参加できないだろうと声をかけない等目に見えない虐待にあいやすい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
40					・旧優生保護法の最高裁判決にて国の賠償が確定したが、声を上げられなかったり、本人が認識していなかったりして実際はあまり進んでいない。プライバシー部分でもあるため、難しい面もあると思うが、県でも何ができるのかを考え、一人でも多くの人を救ってほしい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
41					・成年後見人制度があるが、使い込み等をする人もおり、あまり安心して任せられない。また、弁護士等が後見人となっている場合、必要な費用であっても、なかなか出金を了承してくれず(自分たちの報酬を確保するため?) 不便と聞いている。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
42					・後見人制度があるが、毎月費用が発生するのはいかななものか。信頼できる事業者であるかも分からず、悩ましい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
43					・介助付きコミュニケーション法により、「はい」「いいえ」等の意思疎通ができる人もいる。虐待の有無について本人に確認し、有ると回答した場合は、担当者を交代させたこともある。ただし、本人が具体的に話せず、必ずしも正確とは言えないため、別の理由をつけて交代させた。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
44					・よくない成年後見人がいるため、患者本人や家族が不利益を被っているケースがある。また、そもそも患者本人に意思があるのに、成年後見人がいらぬのではと思うこともある(現在申し立てを行っている)。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
45					・後見人の中には、お金を使いこんでしまう人もおり、質の問題がある。	岐阜県精神科病院協会
46			(4) 包括的支援体制の整備		・ケアラー支援条例が制定され、ケアラーの大変さは認識してもらえたと思うが、今も休めないというのが現状。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
47					・障がい者を抱える家族は大変。家族に対する支援についても記載があるとよい。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
48					・にも包括と重層的支援体制とは相性がよいと考えており、必要な制度だと考える。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
49					・せっかく、重層的支援体制の土台ができなかったところで、国が手を引こうとしており(交付金の減額)、重層的支援体制の仕組みが不安定となっている。みんなで集まって、話し合うことにより、地域の現状を共有でき、よりよい方向へ導くことができていた。体制があることが必要。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
50					・重層的支援体制整備事業があったからこそ、それまでの制度で、ひろいきれていなかった、ひきこもりの人への支援ができた。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
51					・ひきこもり支援は、なかなか本人につながら(響かない)ず、儲からないため、支援を実施する団体が限られている(現状地活の委託の+α部分としてやっている)。そのため、持続可能な事業を考えてもらえるとありがたい。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
52					・「若年層のひきこもりの社会参加、社会復帰」が現在キーワードとなっている。20～30代のうちにアウトリーチして、地域に戻すことが必要。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
53					・美濃加茂市では、重層的支援体制整備事業の一環として、近隣の学校を訪問し、アプローチを実施している。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
54		2 福祉を支える地域社会の構築	(1)地域での支え合い活動の推進	○	・特に災害時等が心配なため、地域の人に知ってもらいたいという気持ちがある。地域とつながる機会があるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
55			(2)県ボランティア・市民活動センターにおけるボランティア活動の促進		・日常的にボランティアとして子どもたちと関わることで、保育のおもしろさを体験でき、保育士になろうと思う人も増えるのではないかな。もっと若い人たちがボランティア活動をできるようになるとよい。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
56		3 福祉のまちづくりの推進	(1)ひとにやさしいまちづくりの推進		・まちづくりの計画ができた後に、意見を聞かれることはあるが、結局意見を反映してもらえない。計画を作成する段階から障がい者団体を交えて検討していただきたい。一度建設・設置されてしまうと改修するのに時間も費用もかかるため、要望してもなかなか改修してもらえない。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
57			(2)移動等の円滑化の推進		・現在、公共交通機関は駅員さんや運転手さんが乗降のサポートをしてくれるが、本来は自分一人の力で乗降できることがベスト。手助けがなくても一人で動けるような社会になってほしい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
58					・本県は広く、交通網も不十分なため、全県下から選手を集めることが難しく、スポーツチームを編成することが難しい状況にある。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
59				○	・盲導犬、介助犬について都市部では、交通アクセスがよく、自分で行動できるため必要性を感じると思うが、地域では、交通アクセスが悪くタクシーを利用する人も多いため、環境的に好まれないのでは。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
60					・福祉・農業会館へのアクセス。OKBふれあい会館のバス停から点字ブロックも音響信号もなく不便。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
61					・発生訓練教室には、同じ境遇の人が通うことになるため、学ぶ場でもあるが、交流の場にもなっており、重要。ただし、車の運転が難しくなると足が遠のくため、交通の便がよくならなくてはならない。	岐阜睦声会
62					・地方では、公共交通の問題もある。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
63		4 情報環境の整備	(1) 岐阜県手話言語の普及及び障害の特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する条例の推進		・手話通訳士・者の人材育成に力を入れてもらっておりありがたいが、もっと若い人たち（高校生・大学生）が手話通訳者士・者になるコースやアプローチがあってもよいのではないかな。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
64					・手話通訳士・者が、専門職として職能自律できるとよい。県や市町村に若い人たちが配置されていくとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
65					・福祉系高校や大学では既に手話を学んでいる人も多いため、さらに力を入れて、職能自立・社会自立の動きを加速するよう、たとえば学校と協定を締結する等動きをつくれるとよいのではないかな。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
66					・若いろう者は、アプリ等を使用している人も多く、手話に頼らなくなっている。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
67				○	・視覚障がい者でも人によって、点字・音声・電子媒体・拡大文字等使用するものは様々。その人が読むことができる媒体で提供できるようになるとよい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
68				○	・行政のサイトでも、ダウンロードができない（しづらい）ものがある。システムを導入する際は、まずはアクセシビリティを検証してから導入していただきたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
69				○	・Uni-Voice（音声コード）は広まってきてはいるが、コードがついていることを標準化することが必要。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
70				○	・スマートフォンは、視覚障がい者にとって目の代わりにもなり、QOLを高めるツールであるため、スマートフォン操作支援は大変人気がある。ただし時間も交通費もかかるため、なかなか地域へ支援に行くことができない（現行は補助金で交通費を賄っている）。また地域で支援できる人を増やすため、支援者講習（飛騨・中濃・東濃）を実施しているが、支援要請がないと活動ができないこと、支援する場合も初めから一人で支援しなければならず不安を感じる（岐阜地域の場合は、周りに他の支援者がいるため支え合える）などがあり、地域での支援者養成がしにくい状況にある。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
71				○	・日本においても、現在、出版の段階からバリアフリーを求められているが、出版社の規模や利益面からなかなか対応されきれていないのが現状で、ボランティアに依存し過ぎている。一方、ヨーロッパの方では、出版社に義務付けられていると聞いている。ボランティアでは、責任の所在が弱いと考える。たとえば報酬を払う等行政がテコ入れして、改善していく必要があるのではないかと。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
72				○	・視覚障がい者にとっては、iphoneの方が使用しやすく一般的。アンドロイドを使用している地域の人を見ると、情報が行きわたっていないと感じる。情報格差が生じてしまっている。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
73					・第4期プランの中で、手話通訳者（統一試験合格者）数の目標値を設定していただいているのでありがたい。第5期でも引き続きお願いしたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
74					・子育てがひと段落してから勉強を始める方が多いため、40代以降の方が中心。そのため若年層の手話通訳者が少ない。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
75					・9月23日（手話の日）に手話の普及啓発を行っていただき、県民の理解を深めていただきたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
76					・手話通訳士養成事業については、全国的に珍しく、先進的な取組である。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
77				○	・行政機関に、ひとまず手話通訳者がいればよい（遠隔でも手話通訳者を配置している）というような風潮になっているが、そうではない。たとえば地名や地域の現状など背景を知っている方に手話通訳をしてもらいたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
78					・UDトークはあるが、手話と日本語は文法が異なるため、手話を第一言語とする者からすると、なかなか文意がとれない。そういった意味でも、手話通訳者が必要。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
79					・近年EL発声法が人気だが、講師の人数が少なく、講師を養成していく必要がる（2～3名で1名を教えるのがベストだが、現在は2名で8～9名を教えている）。	岐阜睦声会
80				○	・新たな施設を整備する際、人がたくさん集まる場所（ホールのようなところ）やコミュニケーションをとる場所（会議室のようなところ）には、ヒアリングループ設備を建設時点で整備してもらいたい。最近、オーラキャストというBluetooth LE Audioを使って1台の送信機から多数の受信機へ同時に音声を「放送」できる新しいワイヤレス音声配信方式が広がりを見せている。ヒアリングループだけでなく、新しい方法についても、アンテナを張って取り入れを検討いただきたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
81					・文字変換アプリも進化し、最近は誤変換も減ってきている。会見も手話通訳ではなく、文字変換アプリを使用した同時表記をしてもよいのではないか。聴覚に障がいのある人にとって、文字による情報提供は必要。聴覚に障がいのある人に確実に情報提供がなされるような未来構造をお願いしたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
82					・大人の軽中度難聴者に対する支援がない。補聴器の購入補助等があるとよいのではないか。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
83					・要約筆記者は地方におらず、現状は広域派遣を行っている。要約筆記者になりたいと思う人自体が少ないということも承知しているが、できるだけ全圈的に網羅できるよう引き続き養成を行っていただきたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
84					・ダウン症の子は、難聴もかかえている場合が多い。知的障がいがある人にとって手話は難しく、マカトン法（手指による動作表現で、単語表現のため、手話よりも簡単）で意思疎通を行っている。手話の普及とともに、マカトンについても知ってもらえるとよいのではないか。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
85			(2)障がい者による情報の取得利用・意思疎通に係る支援の充実	○	・視覚障がい者でも人によって、点字・音声・電子媒体・拡大文字等使用するものは様々。その人が読むことができる媒体で提供できるようになるとよい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
86				○	・行政のサイトでも、ダウンロードができない（しづらい）ものがある。システムを導入する際は、まずはアクセシビリティを検証してから導入していただきたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
87				○	・Uni-Voice（音声コード）は広まってきてはいるが、コードがついていることが標準化することが必要。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
88				○	・スマートフォンは、視覚障がい者にとって目の代わりにもなり、QOLを高めるツールであるため、スマートフォン支援は大変人気がある。ただし時間も交通費もかかるため、なかなか地域へ支援に行くことができない（現行は補助金で交通費を賄っている）。また地域で支援できる人を増やすため、支援者講習（飛騨・中濃・東濃）を実施しているが、支援要請がないと活動ができないこと、支援する場合も初めから一人で支援しなければならず不安を感じる（岐阜地域の場合は、周りに他の支援者がいるため支え合える）などがあり、地域での支援者養成がしにくい状況にある。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
89				○	・視覚障がい者にとっては、iphoneの方が使用しやすく一般的。アンドロイドを使用している地域の人を見ると、情報が行きわたっていないと感じる。情報格差が生じてしまっている。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
90				○	・耳が聞こえなくても、一住民であり、市役所等においても、他の住民同様対面でのやりとりを望んでいる。遠隔手話があると言われても、使いづらい（岐阜市、飛騨市も導入しているが使用実績がない）。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
91				○	・新たな施設を整備する際、人がたくさん集まる場所（ホールのようなところ）やコミュニケーションをとる場所（会議室のようなところ）には、ヒアリンググループ設備を建設時点で整備してもらいたい。最近、オーラキャストというBluetooth LE Audioを使って1台の送信機から多数の受信機へ同時に音声を「放送」できる新しいワイヤレス音声配信方式が広がりを見せている。ヒアリンググループだけでなく、新しい方法についても、アンテナを張って取り入れを検討いただきたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
92			(3) 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進	○	・日本においても、現在、出版の段階からバリアフリーを求められているが、出版社の規模や利益面からなかなか対応されきれていないのが現状で、ボランティアに依存し過ぎている。一方、ヨーロッパの方では、出版社に義務付けられていると聞いている。ボランティアでは、責任の所在が弱いと考える。たとえば報酬を払う等行政がテコ入れして、改善していく必要があるのではないかな。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
93					・図書館業務については、均一サービスになっており、地域間格差が生じていない。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
94					・読書バリアフリー法における、「視覚障害者等」の「等」には遷延性意識障がい者も含まれている。視覚障がい者だけではないということをPRし、支援してもらいたい。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
95		5 ぎふ清流福祉エリアにおける支援の充実	(1) ぎふ清流福祉エリア内施設の活用と連携の推進	○	・福祉友愛プールについて、幅広い層の人が利用できるようになったことはよいことだが、メインに使ってもらいたい層の人が、ちゃんと使えるようにしていただきたい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
96				○	・（これまでも要望してきているが）福祉友愛プールは、既存のバス停は遠く、本数も限られている。グループで利用しない場合でも、利用したい時に利用できるよう交通の便を改善していただきたい。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
97				○	・福祉友愛アリーナの利用者が少ないと聞いている。もっと障がい者団体にPRしたらどうか。ただしバスのアクセスがよくなく、スポーツで利用してほしいと言われてもなかなか利用しづらい。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
98				○	・お年寄りの利用者がいるため、プールの全体貸切ができない。希望ヶ丘のプールは、福祉友愛プールができたためなくなったのに、実際は年に1回程度しか利用できていない。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
99				○	・障がい者であっても、できることはやってもらい、多少なりとも負担をすることは必要。そのため友愛アリーナ・プールの料金を値上げするとよい（受益者負担）。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
100				○	・友愛アリーナ・プールの交通の便が悪い。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
101	6 安全な暮らしの確保(防災・防犯・感染症対策)	(1)防災対策の充実			・個別避難計画は相談支援専門員が作成していると思うが、神戸市では相談支援専門員だけでなく、家族がオンラインで入力もできるようになっていると聞く。自分でできる人については、自分でやってもらい個別避難計画の作成を進めていくとよい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
102					・防災について、障がいのある人がどう避難するのか、具体的なイメージがわからず、対策が遅れている印象がある。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
103					・愛知県では、障がいのある人をテーマの1つとして総合防災訓練を実施していると聞いている。 例) 家が半壊した際、車いす利用者をどう救助するか等	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
104					・防災について、不安を感じている障がい者団体は多い。県の役割、市町村の役割を整理していかないといけないと思うが、不安を解消する取組を早急にしていく必要がある。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
105					・障がいのある人をはじめ配慮が必要な人でも利用できる避難所になるよう、避難所のレイアウトをどうするか等訓練の実施やマニュアルの作成を行っていただきたい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
106					・能登地震の際、避難所を利用できなかった人は独自で公園や商業施設の立体駐車場に避難した人もいた。その時支援物資を要求できるアプリが役に立ったため、運用を継続していただきたい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
107					・市町村内に福祉避難所はあるが、福祉施設が多いため自宅の近くにないケースが多い。自宅の近くに避難できるよう設置していただきたい。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
108					・災害時における情報保障について、地域格差があると聞いている。直接的な取組は市町村だと思うが、調査等県においても地域格差が生じないように取り組んでいただきたい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
109					・避難所においても、「聞こえないからできない」という訳ではない。何か役割を与えてもらえればみんなと同じようにできる。そのためには情報が必要。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
110					・特に急を要する避難の場合、人工内耳用の電池や充電器を持って避難することができない可能性がある。そうなると、筆談でしかコミュニケーションがとれなくなる。避難所の通訳者は確保されているのか、また筆談でしかコミュニケーションがとれなくなることについて、どの程度想定され、準備してもらえているのか不安。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
111					・市町村によって個別避難計画の作成状況は様々。災害はいつ発生するか分からないため、すぐに対応してもらいたい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
112					・個別避難計画は1度作成しただけではいけない。症状の進行や取り巻く環境の変化等情報を更新していく必要があり、定期的な見直しが必要。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
113				○	・特に災害時等が心配なため、地域の人に知ってもらいたいという気持ちがある。地域とつながる機会があるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
114					・災害時は、まずは一般避難所に避難しないといけないとなっているため、初めから福祉避難所立ち上げ、避難できるようにしていただきたい。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
115					・災害発生時、避難所まで個人で行けない可能性があるため、周りの人に声をかけてもらいたいと思っている。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
116					・近年、豪雨が予想されると早めの避難を呼びかけられるが、呼びかけるのであれば、早めに避難所を開設すべきだし、早めに開設情報も周知すべきだ。この前、避難したら避難所が開設されていなかった。知的障がいのある人が避難することは簡単なことではない。まず、本人を避難する気にさせることから始めないといけないため時間がかかる。また避難所に行ったとしても、なじめないと帰ってこなければいけない。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
117			(2)防犯対策の充実		・ここ最近、障がいのある方に関する消費者トラブルの相談が増加している。地元の支援関係者へ相談しても十分な対応が得られないケースや、やむを得ず他市町村へ相談・転居されるケースも見受けられ、地域における支援体制の課題が顕在化している。しかしながら、個別事案として扱われることが多く、地域全体の課題として共有・検討されにくい状況が続いている。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会
			(3)感染症対策の充実			
118				○	・感染予防も含め、利用者の安全確保がなされていないグループホームがでてきている。運営指導をしっかりと実施していただきたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
119	Ⅱ 社会参加と自立を進める支援の充実	Ⅰ インクルーシブ教育システムの構築	(1)特別支援教育を支える体制の整備		・特別支援学校の充実も必要だが、通常学級でも障がいのある子が頑張っていける枠組みも必要。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
120					・特別支援学校の卒業生の約6割が社会に出ないで家にいると聞いている。将来に対する希望がなく、率先して社会にでようとしないようだ。なんとか社会に出るようにしなければならない。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
121					・特別支援学校における医療的ケア児の通学支援のモデル事業を実施していると聞いている。子どもの自立という面からしても、親の負担軽減という面からしても通学支援は必要。モデル事業ではなく、早く全体的な支援を開始してほしい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
122					・特別支援学校は、心身に障がいのある子のための学校であるにも関わらず、親の送迎や付き添いが必要になる場合があることがおかしい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
123					・岐阜市のアンケートでは、地域の学校に入りたいと思っている親が多かったが、実際は地域の学校に通っているケースは少ない。学校側に受入体制ができていないのではないかと（入学を断られたケースあり）。地域の学校で、障がい児を受け入れるためにどうするとよいか、どう体制を整えるのか検討する必要がある。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
124					・インクルーシブ教育について、理想郷的な感じがある。たとえば音楽や運動会を一緒にやることになっても、実際同じことはできないし、先生についても、その子のために別途一人つかないといけなかったりするため申し訳ない気持ちになる。個人的には分けてもよいのではと思う。いつ診断されるかによって、親の感覚が違ってくるかもしれない。途中で診断された場合は、インクルーシブ教育が必要と考える場合も多いのでは。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
125					・特別支援学校では、教室や教師が不足しているため、改善してほしい。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
126					・特別支援学校にも不登校の子がいる。その場合、親が仕事を休まないといけなかったり、一人で留守番をさせなければならなかったりする。そういう子が行けるようなフリースクールや預かってもらえるところがあるとありがたい。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
127					・大垣特別支援学校の教室が足りていないと聞いている。学習環境を改善してほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
128				○	・インクルーシブ教育というと、学校教育がメインになっているかと思うが、保育・幼児の方も大切であり、保育にも重点を置いた取組を行っていただきたい。プランの項目も「インクルーシブ教育」ではなく「インクルーシブ保育・教育」とすべきではないか。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
129					・（特に大垣特別支援学校）教室も不足しており、職員駐車場もないため、生徒、教師共に大変なため、もう少し環境を整備していただきたい。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
130					・特別支援学校が増えたことにより、地域間で生徒数の差が激しい。生徒が少ない場合、目が行き届く面もあるが、行事が開催しづらい面もある。もう少し生徒数の均一化ができるとよい。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
131					・責任問題があるのか、スクーリング時も親がついていないといけない。せめてスクーリング時だけでも、親がいなくてもよいとしてほしい（親の負担軽減）。	岐阜県重症心身障害児（者）を守る会
132				○	・現在、特別支援学校の充実が中心となっているが、地域の中で共に生活することが大切。特別支援学校以外にも注力していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
133					・特別支援学校が増えた。専門的な支援が受けられるという点ではよいかもしれないが、入学時点で健常者と障がい者に分かれてしまう。学校で一緒に過ごすことはとても大切。	岐阜県障害福祉事業所連絡会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
134			(2)障がいのある児童生徒のニーズへの対応		・近年、通級指導教室から通常学級に戻ったかどうかと提案しても、通級指導教室の継続を希望する親が増えている。親も不安を抱えている。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
135					・子どもの生活の場が、自分で選択できるよういくつか選択肢があるとよい。細やかに準備されることが、生きやすさにつながるのではないか。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
136			(3)教員の専門性の向上		・文部科学省の調査によると、通常学級にも8.8%の学習面又は行動面で著しい困難を示す児童がいる。そのため、どの教員も専門性を蓄え、自信を持って指導できる仕組みがあるとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
137				○	・先生や福祉職員の中にも、障がいのある人に対し、悪気なく上から目線の発言をする人が多い。それは対等にみていないからだ。障がいのある人も同じ人間として尊重されるべきであり、意識改革が必要。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
138		2 雇用・就労の促進	(1)障がい者の一般就労拡大の推進		・「働いてもらい方」という言葉が耳慣れない。働く人を大切にしているのだと思うが、雇用する側も大切であり、対等な関係でないといけないと感じる。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
139					・筋ジストロフィー等障がいが高く、在宅勤務が必要な人は就労の選択肢が少ない。また情報が必要な人まで届いていない気がする。少数かもしれないが、医療的ケアが必要だが働く意欲のある人向けの相談窓口や就労の仕組みが必要。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
140					・特別支援学校時代は、先生等がサポートしてくれるため円滑に学校生活を送れるが、いざ就職すると人間関係の難しさから辞めてしまう人も多い。その後のフォローも必要。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
141					・視覚障がい者が、働ける場所の提供、働けるような教育を実施していただきたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
142				○	・「視覚障がい＝何もできない」というイメージがあるかもしれないが、そのイメージを払拭し、就労の場を広げていけるとよい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
143					・行政で積極的に雇用していただき、手本になっていただきたい。障がい福祉分野に限らず、それ以外の分野でも雇用できるのでは。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
144					・山梨県職員の採用には、障がい者枠の他に難病患者枠がある（山梨県内の難病団体の働きかけにより創設された）。岐阜県においても難病患者枠を創設していただきたい。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
145					・趣旨は分かるし、取組としては推進してもらいたい、「働いてもらい方改革」という言葉は、日本語としておかしいため、すんなり入ってこない。言い方を変えた方がよいのではないかな。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
146					・難病患者も障がい者も本人は働きたいと思っている。「働いてもらい方」というと、「やってもらっている」というニュアンスを感じるため、違和感がある。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
147				○	・聴覚に障がいのある人へは、職場に合った支援方法、職種に合った支援方法が必要であり、どうするとよいかを職場ごとで考えてもらいたい。また、民間事業者は、まだ意識が低いところがあるため、県において障がいに対する啓発活動をお願いしたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
148					・働いてもらい方改革は、多様な働き方や多様な人が働けるため、よい取組だと思う。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
149					・現行の制度は、障がいの重い人が働くことを前提とした制度になっていない。時間的配慮、福祉サービスの拡充等働く環境を整えてもらえれば障がいの重い人でも働くことができる。 ※重度訪問介護は就労中の支援が認められていないが、重度障害者等 就労支援特別事業を利用すればサポートが受けられる（実施は市町村判断）。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
150					・在宅就労は実はハードルが高い。会社勤めの方が在宅をするのと異なり、初めから一人で仕事をしなければならず、いきなり一人で仕事をしろと言われても分からないことがたくさんある。障がい者職業能力開発校もあるが、通学が困難な人がたくさんいるため、職業訓練ができるeラーニングのようなものがあるとよい。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
151					・障がいのある人はパソコン作業というイメージがあるかもしれないが、得意とすることは様々。その人がやりたいことができるよう、働き方の選択肢がたくさんできるとよい。そのためには、受け入れ事業者側も環境を整備していく必要がある。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
152					・就労支援は、ただプランに言葉として並べるのではなく、どういう形で就労支援するかということを検討してほしい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
153					・障がい者枠で採用される場合も、言葉がうまく理解できず、「ふざけているのか」と言われ、何回も辞めてしまう人もいる。失語症者には、ジョブコーチをつけるとよいのではないかな。	岐阜県失語症友の会
154					・失語症者は元の仕事に戻ることは難しく、打ち切りや退職になってしまうケースが多い。	岐阜県失語症友の会
155					・失語症者本人もプライドがあるため、一般就労を希望し就職活動をするが、なかなか採用してもらえない。一方で、B型就労継続支援事業所も少し違う気がする。	岐阜県失語症友の会
156					・一般就労はなかなか厳しいのが現状。企業の理解が必要。	岐阜県特別支援学校PTA連合会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
157					・就職先で、合理的配慮があまりされていないのが現状。ここまでやっているからそれ以上はできないと言われる。どう理解を求めるか苦労している。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
158					・超短時間労働ができる職場を探そうとしても、見つけれない。どこで探せばよいか。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会
159					・精神障がいのある人は、お金の心配をしがち。お金がつかると不安定になり、お金が安定すると心がおちつく。安定した収入の確保が必要。	岐阜県精神障害者作業所交流会
160						岐阜県精神障害者作業所交流会
161					・働いてもらい方改革 福祉版をすべき。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
162					・チャレンジトレーニング事業については、事業所、障害者双方に手当てが出ることで障がい者が経済的な負担に対する心配が少ない形で企業就労にチャレンジしやすくなり、大きな成果を挙げている。しかしながら令和8年度においては、障がい者に対する手当てがなくなる形での改正に向けて調整していると聞いている。中には経済的に困窮している者も少なくない中、障がい者が経済的に安心して企業就労にチャレンジできるよう、障がい者に対し何らかの手当の支給ができるような制度改革を検討いただきたい。	岐阜県障害者職業センター
163					・障がい者の就労支援に関する基礎的研修については、悉皆4者（障害者就業・生活支援センターの①就業支援担当者、②生活支援担当者、③就労移行支援事業所の就労支援員、④就労定着支援事業所の就労定着支援員）が確実に受講できるよう、受講促進に向けた取組をお願いしたい。	岐阜県障害者職業センター
164			(2)福祉的 就労の充実		・作業所の現実厳しく、毎月の給料が安すぎる。給料が安すぎると働きたくないという気持ちも出てきてしまう。給料を向上させるとともに、就職率だけではなく定着率も見て今後の対応を検討していかななくてはならない。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
165					・企業も業務の切り分け等を真剣に行い、作業所に仕事を渡す仕組みをつくらなければいけない。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
166					・障がい者の就労については、一定数悪い事業者がいる。そういう事業者を抑制するためにも、プランの中にも記載があるとよいのではないか。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
167					・B型では、工賃に差があまりでないため、障害者年金をもらうようになると重度の人の方が軽度の人よりも収入が高くなる。そうすると、軽度の人モチベーションが下がる。働きが認められるような工賃体系になるとよい。	岐阜県特別支援学校PTA連合会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
168					・特に就労継続支援B型事業所は既に充足しているように見えるが、総量規制は行わないのか。岐阜県は参入しやすいと言われている。フランチャイズ方式の聞いたことが無い就労継続支援B型事業所が増えてきている。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
169					・就労選択支援事業所が少ない。必要とするケースが増えており、特別支援学校では、夏休みに利用したくても取り合いとなっている。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
170					・障がい児時代は、放課後デイサービスも利用でき、送迎があるが、A型・B型事業所では勤務時間も限られており、家族の負担が大きくなる。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
171					・能力の違いが工賃に加味されないため、少し仕事ができる人の労働意欲が低下してしまう。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
172					・たとえば在宅で、植木に水やりをするだけで給与が支給される等あきらかにおかしいB型事業所が増えてきた気がする。難しいとは思いますが、適切なサービス提供を行うよう事業所の質の向上を図るような体制をとってほしい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
173					・精神障がいの人は、波があるため、毎日来られない人も多く、作業時間もまちまち。一方、知的障がいの人は、覚えるのに時間はかかるが、まじめに取り組むため、知的障がいの人が多い方が、事業所の安定運営につながる。	岐阜県精神障害者作業所交流会
174					・平均工賃により基本報酬が決まるため、小さな事業所は精神がいの人が多いと苦しいと思う。	岐阜県精神障害者作業所交流会
175					・若い利用者は、B型事業所を通過点と捉え、一般就労やA型事業所を目指す人が多いが、年配の利用者は、安定した職場環境を求め定着する人が多い。	岐阜県精神障害者作業所交流会
176					・在宅就労の支給状況は県内でも格差が生じていると考える。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
177					・企業側とのつながり、さらに多くの福祉事業所とのつながり（出店事業所やセミナー参加者が固定化されている）が課題。	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
178					・障がいの特性ごとに異なる工賃向上に向けた福祉事業所支援が課題。	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
179					・新規商品開発に向けた支援が必要。	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
180			(3) 農福連携の推進		・農福連携は取り組んでいけるとよいと思っているが、親としては、農業就労についてマイナスのイメージがあるようだ。そのため、現在は親子で参加してもらうようにしている。様々な作業があるため、得意な部分を活かせればと思っている。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
181		3 外出や 移動の支援	様々な障がい に合わせた移動支援 の充実		・人工透析を行っている人向けの移動支援は比較的手厚くなっているが、それ以外は移動支援が弱い。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
182					・歩行訓練も同様に、岐阜地域が中心となっており、サービスの均一化が必要と感じる。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
183					・最近、同行援護を実施しない事業所が増えてきているが、地域型の援護だと思うため、各自治体に最低1 事業所、同行援護を行う事業所があるとよい(市町村社協が中心になるとよいのでは)。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
184					・若い人たちは自分たちでと思っている人も多く、利用者は高齢化している。また、中途の方などは知らない 人も多い。それでも同行援護は必要な事業。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
185				○	・盲導犬、介助犬について都市部では、交通アクセスがよく、自分で行動できるため必要性を感じると思う が、地域では、交通アクセスが悪くタクシーを利用する人も多いため、環境的に好まれないのでは。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
186					・盲導犬、介助犬は2頭目、3頭目も同様だが、利用するには2～3週間の泊まり込みの訓練が必要となり、そ の間仕事を休まなくてはいけなくなるため、ためらう人もいるのでは。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
187					・公共交通機関を利用したくても、駅やバス停まで行くあしがない。近距離移動の支援策がほしい。また現行 福祉有償運送で補っている部分があるが、福祉有償運送は採算が合わないと聞いているため、運営支援が あるとよい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
188					・移動支援は、多少歩ける障がい者にとって利用ハードルが高い。親が頑張ればよいかという気持ちもあり、 絶対必要というわけではないが、利用できるとうれしい。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
189				○	・1級のグループホーム利用者は、収入：年金8.8万円、補助1万円、生活介護(工賃)千円、支出：家賃3.5 万円+食費・光熱費、昼食代1万円ぐらいであり、ほとんど余裕資金がない。親がいなくなると援助がなくな るため遊ぶ資金もなくなってしまう。また、外出する際はヘルパーが必要だが、ヘルパーがおらず契約もでき ない。そうすると、休日もグループホームにいただけになってしまう。 →県独自で取組めることがあれば実施していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育 成会
190					・中山間地域に住んでいると、専門医療にかかるのも困難。親が送迎できるうちはよいが、そうでないと福祉 有償運送等を利用しなければならないが、料金が高く現実的ではない。移動支援策があるとよい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育 成会
191					・地元のスポーツセンターを利用するにしても、親が送迎しなければならないため、交通の便を改善してい ただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育 成会
192					・移動支援事業者が少ないため、利用したくても利用できない。余暇活動をしたくてもできないのが現状。	岐阜県障害福祉事業所連絡会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
193	4 パラス スポーツの充 実	誰もが楽し めるパラス スポーツの推 進と環境の 整備			・移動支援を行っているところが少なく、なかなか遊びに行くことができないため、移動支援を行う事業所が増えるとよい。	特定非営利法人岐阜県精神保健 福祉社会連合会
194						
195				○	・福祉友愛プールについて、幅広い層の人が利用できるようになったことはよいことだが、メインに使ってもらいたい層の人が、ちゃんと使えるようにしていただきたい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
196					・障がいのある人だけでやるスポーツもよいが、ある人もない人も共にやれるスポーツや、日々の練習を一緒にできるスポーツを増やしていけるとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
197					・施設の充実については、展開として、パラスポーツへの理解促進やパラスポーツ観戦といった障がいのある人以外へも波及するとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
198				○	・家にいる障がいのある人たちを芸術やスポーツ分野に引き出すことも必要。どうすれば関わるができるか考える必要がある。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
199				○	・相談支援員は、身の回りのサービスについての相談しかできない。相談支援員と身体・知的障害者相談員が連携できれば、スポーツや芸術など障がいのある人の生活を充実させるような支援ができるのではないかと。研修も合同でできるとよいのではないかと。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
200				○	・視覚障がい者が、舞台芸術やスポーツを楽しむためには、音声解説や実況があるべき。視覚障がい者向けの解説や実況ができる人材が必要であり、養成をしていく必要がある。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
201				○	・県で実施する芸術・スポーツイベントでは音声解説や実況をしていただきたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
202					・たとえばブラインドベースボールの話をする、実況があることで観戦者だけでなく、外野にいる選手等も状況が分かるためありがたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者 福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
203					・デフリンピック、パラスポーツの選手を新たに掘り起こすことが必要。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
204					・現在活躍している選手も、たまたまデフリンピックを知っている人と出会ったため出場につながった。学校の先生をはじめ、いろんな人にデフリンピックの存在を知ってもらうことで新たな選手発掘につながる。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
205				○	・（これまでも要望してきているが）福祉友愛プールは、既存のバス停は遠く、本数も限られている。グループで利用しない場合でも、利用したい時に利用できるよう交通の便を改善していただきたい。	特定非営利活動法人岐阜県難病 団体連絡協議会
206					・パラスポーツは、肢体不自由の方のイメージが強く、知的障がいを伴う子（親）にとってはハードルが高いと感じている。みんなの意識を知的の方でも、どんな程度でもパラスポーツに参加できるというふうに変えていけるとパラスポーツが普及するのではないかと。	岐阜県特別支援学校PTA連合会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
206					・障がいも様々で、たとえばダウン症の子と自閉症の子を同じ部門にしまうと、どうしてもダウン症の子の方が、筋力的に不利になる。もう少し部門を細分化した方が、スペシャルオリンピックス等に参加しやすくなるのではないか。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
207					・県のパラスポーツイベントの案内を見た記憶がなく、情報が行き届いてないのではないか。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
208				○	・福祉友愛アリーナの利用者が少ないと聞いている。もっと障がい者団体にPRしたらどうか。ただしバスのアクセスがよくなく、スポーツで使用してほしいと言われてもなかなか利用しづらい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
209				○	・お年寄りの利用者がいるため、プールの全体貸切ができない。希望ヶ丘のプールは、福祉友愛プールができたためなくなったのに、実際は年に1回程度しか利用できていない。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
210					・eスポーツの野球大会が秋に開催され、遷延性意識障がい者のグループも参加する予定である。スイッチやスイッチ相当の機器を使用できるのであれば参加できる。在宅でもでき、かつ横のつながりができるため大変有益だと思う。今後もeスポーツが普及するとよい。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
211					・パラスポーツは、特別支援学校の生徒やその卒業生が中心というイメージがある。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
212					・施設としては、ボッチャを現在実施しているが、今後はもっとパラスポーツに取り組んでいきたいと思っている。施設向けのパラスポーツ支援を強化してもらえるとありがたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
213				○	・福祉友愛プール・アリーナを充実してもらっても、中山間地域に住んでいる人からすれば利用できないため何も関係ない。それよりも、地元のスポーツセンターの利用料の無償化や(重度の人は必ずヘルパーを同伴させてないといけないうため)ヘルパーの確保に取り組んでいただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
214					・障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書(文部科学省)では、2030年までに「パラスポーツセンター」を全県で設置されるべきとされている。現行全国には30程度施設があり、当県でも設置できるとよい。友愛アリーナ・プールが既にあるため、そこにパラスポーツセンター機能を設けられるとよい。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
215				○	・障がい者であっても、できるところはやってもらい、多少なりとも負担をすることは必要。そのため友愛アリーナ・プールの料金を値上げするとよい(受益者負担)。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
216				○	・友愛アリーナ・プールの交通の便が悪い。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
217					・パラスポーツ選手の掘り起しについて、一般部門でできている人をパラスポーツ部門に機械的に連れてくるのは少し疑問を感じる。スポーツをやる場がなかった人がやれるようになったということであればよいと思う。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
218					・障がい者がスポーツという環境にたどりつけていない。医療機関を利用するため、PTやOTとの連携(協力・理解が得られれば)ができればスポーツをする機会につながる。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
219					・障がい者にとって、スポーツは敷居が高いと感じている可能性がある。体を動かすことの習慣ができれば、「地域スポーツ→競技スポーツ」とつながっていく可能性がある。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
220					・アンケートでは、「一緒にやる人がいない」「やる場所がない」と答えている障がい者が多く、スポーツをはじめの障壁となっている。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
221					・パラスポーツフェスタもこれば楽しいというが、そこに来るまでに障壁がある。いかに障がい当事者へアプローチするかを考えないといけない。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
222					・現在のパラスポーツは岐阜圏域が主となってしまっている。わざわざ岐阜圏域にこなくても地域でできる仕組みができるとよい。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
223					・新たな施設建設は困難だと思う。そのため、たとえば優先利用時間を設けるやスロープの設置等既存施設を障がい者が利用しやすくなるよう工夫してもらうとよいのではないか。そして指導員を配置してもらうとよいのではないか。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
224					・ぎふ清流ハーフマラソンには、車いす参加ができない。また、ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会にFC岐阜のブースはあるのに、パラスポーツのブースはない。既存の事業を活用し、普及できるのでは。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
225		5 障がい者の芸術文化活動の充実	障がい者芸術文化活動の取組み推進と環境の整備		・障がい者の文化芸術活動については、注力いただいております。今後もお願いしたい。障がいのある人となない人がコラボしながら、愛される活動を実施できるとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
226				○	・家にいる障がいのある人たちを芸術やスポーツ分野に引き出すことも必要。どうすれば関わるができるか考える必要がある。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
227				○	・相談支援員は、身の回りのサービスについての相談しかできない。相談支援員と身体・知的障害者相談員が連携できれば、スポーツや芸術など障がいのある人の生活を充実させるような支援ができるのではないか。研修も合同でできるとよいのではないか。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
228				○	・視覚障がい者が、舞台芸術やスポーツを楽しむためには、音声解説や実況があるべき。視覚障がい者向けの解説や実況ができる人材が必要であり、養成をしていく必要がある。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
229				○	・県で実施する芸術・スポーツイベントでは音声解説や実況をしていただきたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
230	Ⅲ 日常生活を支える福祉の充実	Ⅰ 障がい者の地域生活支援	(Ⅰ)地域生活支援拠点等の機能の充実	○	・現在、特別支援学校の充実が中心となっているが、地域の中で共に生活することが大切。特別支援学校以外にも注力していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
231			(2) 入所等 から地域生 活への移 行、地域生 活の継続の 支援		・県立障がい者施設の再整備については、第5期プランに少しでもロードマップを示せるとよい。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
232					・現在、家族が中心となって障がいのある人を支えているが、家族自身も高齢になっていく。家族の状況や家族の有無に関わらず地域で安心して暮らせるようになるとよい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
233					・親なき後を心配している親御さんが多い。親が活着ているうちに、安心できるような体制を構築していただきたい。	特定非営利活動法人岐阜県難病 団体連絡協議会
234				○	・頸髄損傷者の多くは、社会資源を活用し、居宅系の福祉サービスが使用できれば一人暮らしができるが、相談支援専門員は、施設入所を勧める傾向にある。自分たちは自宅で生活したいと思っている。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
235					・テクノロジーの進化により、障がいのある人でも一人暮らしがしやすくなっている。かつては障がい者専用の機器であったが、今は市販の機器を活用できるため費用も抑えられる。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
236				○	・重度訪問介護の時間数を増やしたいと思っても、ヘルパーが不足しており難しそうな感じ。重度であればあるほどサポートが必要であり、ヘルパー不足で特に困るのは自分たちである。ヘルパー不足解消に取り組んでいただきたい。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
237					・県立障がい者施設の再整備を検討するのであれば、今入所している人たちをどう地域移行するのも合わせて考えなければならない。グループホームやヘルパーの利用等を入所者に情報提供し、入所者の想いを丁寧に受け止め進めていく必要がある。入所者に選択肢を持たせることが必要。自立できるかは、本人の能力もあるが、支援力の部分も大きいため、丁寧な対応をしていただきたい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
238					・グループホームへの入居希望が多いが、小さな民間事業者だと1棟建てるだけで大変。公営住宅等の一部を活用し、グループホーム的な機能をもたせられるとよい。	重度障害者の自立をめざす山鳩の会
239					・盲ろう者というだけでなく、知的等他の障がいがあったり、高齢者だったりする場合がある。自分たちは、盲ろう者に対する支援はプロだが、他の分野については素人であり手が出せないところもある。他のサービスと連携し、複合的な支援が必要。ただし、当会の規模では中心になって取り組むことは難しく、他の団体のサポート的な立場で支援できるとよい。	岐阜盲ろう者友の会
240					・介助者は盲ろう者から、一度役に立たないと思うと、その後は拒絶されてしまう。初めが肝心。	岐阜盲ろう者友の会
241					・視覚障がいの人へ「耳が聞こえづくなってませんか」、聴覚障がいの人へ「目が見えづらくなっていませんか」のような案内ができると、本人も受け入れやすいのではないか。	岐阜盲ろう者友の会
242					・症状が深刻になってからでは、サポートの仕方が難しい（対応しかねるところがある）ため、深刻になる前に、コミュニケーションやサポートを始める必要がある。そのためには、継続的なニーズ調査が必須。ただし、聞き取りを行おうとしても、状況を素直に教えてくれない。当会と関わることや状況を話すことで、自分が盲ろう者だと認めることとなり、感情的に受け入れがたい面があるようだ。	岐阜盲ろう者友の会
243					・たとえば不便になったことを手伝ってもらおうという感覚で、サポートは深く考えずに気軽に利用してもらえればよい。抵抗感をもたれないよう、本人への意識啓発が必要。	岐阜盲ろう者友の会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
244				○	・グループホームは、形式的には医療的ケアが必要な人や重度の人も入居できるとされているが、実際は受け入れてもらえないことが多い。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
245				○	・グループホームに入居していても、途中で医療的ケアが必要となると退去しなければならず、親も困ってしまう。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
246				○	・短期入所も2・3歩でも歩けると断られてしまうため、なんとかしてほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
247				○	・親自身がしっかりしているうちに、親なき後どうするとよいのか、勉強し自分が分かった上で、手続きする必要がある。親に対しても、早めの準備・勉強が必要であることを周知してほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
248					・いきなり施設に入れるのには抵抗がある。できれば、グループホームで週に何日か暮らし、残りは実家に戻ってくる等を繰り返し、徐々に離れていけるとよいと思う。移行を支える何かがあるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
249				○	・特別障害者手当と障害者年金で重度の人であれば、資金的には生活できる。一方2級では働かないと賄うことができない。親なき後、生活できるような仕組みになるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
250					・学校を卒業すると、社会とのつながりが無くなりがち。卒業後にも何かできるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
251					・面倒をみている家族なき後が心配。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
252					・内部体制に不備のある法人には、一般的に補助金はおりない。施設の再整備自体は必要かもしれないが、虐待事案が発生した団体の運営する施設に対し、巨額資金が投入されるのは、民間の感覚としては違和感がある。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
253					・現状として、運営団体の中でリーダーになれる人が思い浮かばない。施設が再整備されたとしても職員体質は変わらないのではないかと。施設だけでなく、職員自身が変わる(成長する)必要がある。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
254					・再整備は、障がい者福祉施設の今後の在り方についての岐阜県モデルになるのではないかと考えている。早く詳細が知りたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
255				○	・グループホームの施設への営業が最近すごい。グループホームが増えすぎているのではないかと。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
256					・地域移行が進められているが、身体障がい者の場合、地域での生活が難しくなったため、施設に入所する方が多い。そのため、地域に戻る事が難しい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
257					・地域移行と言われるが、地元で資源がなく、人材も不足しているため、制度としてはあるが、実際はできていない。一歩進めるため、具体的な目標値を掲げられないか。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
258				○	・自閉症や強度行動障がいの方は、集団生活は難しいが、一人暮らしであればできることが多い。そうすると、ほぼ24時間体制の支援が必要になるため、ヘルパーを養成する必要がある。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
259					・重度の人が、年をとっても安心して地域で暮らせる施設がほしい。現在郡上市で設置要望活動をしている。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
260				○	・1級のグループホーム利用者は、収入：年金8.8万円、補助1万円、生活介護（工賃）千円、支出：家賃3.5万円＋食費・光熱費、昼食代1万円ぐらいであり、ほとんど余裕資金がない。親がいなくなると援助がなくなるため遊ぶ資金もなくなってしまう。また、外出する際はヘルパーが必要だが、ヘルパーがおらず契約もできない。そうすると、休日もグループホームにいただけになってしまう。 →県独自で取組めることがあれば実施していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
261					・県営住宅は古いところが多いため、改修していただくとともに、障がい者枠を設けるなど、障がいのある人の一人暮らしを支援していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
262					・福祉用具の支給対象として、自閉症者に対するイヤーマフやスマホアプリも対象としていただきたい。障がいの特性は様々なため、支給対象は柔軟に対応していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
263					・親なき後が、とても心配。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
264					・知的の人は老化が早く、早い時期に身体能力が低下する。そのため、地域移行というのであれば、自宅への手すり設置等の補助をしていただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
265				○	・施設は、くらしの場所であり、安心・安全な場所でないといけない。そういった場所にするのが私たちの使命であると考え。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
266					・障がい者にとって住居問題がある。居住支援法人も増えてきているが、保証人制度についてもできれば記載していただきたい。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
267					・親なき後は切実な問題である。兄弟にもそれぞれの生活があり検討が必要。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
268					・岐阜市に強度障害者施設がない。ひまわりの丘は遠いため、みどり荘再整備等に組み込んでもらえるとありがたい。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
269				○	・一時的に子どもが家へ戻ってきたが、既に子どもの方が体が大きく、トイレの支援等が大変だった。施設を出されたら生きていけない。	岐阜県自閉症協会
270				○	・自閉症に特化した施設があるとよい。	岐阜県自閉症協会
271					・親がいるうちは、手続きや資金的援助ができるが、親がいなくなると全てできなくなってしまう。一人でちゃんとした生活ができるか心配。	岐阜県精神障害者作業所交流会
272					・親が亡くなると親のものを処理しなくてはならないが、撤去費用がかなりかかる（30万円超え）。そのため、グループホームへの入居や新たな場所での一人暮らしへ踏み出すことがしにくい。	岐阜県精神障害者作業所交流会
273			(3) 障害福祉サービスの充実、質の向上		・今後3カ年の障がい分野に係る規模感をどう想定しているのか。総量規制をかけるのか、充実を図るのか、県としての考えを示せれるとよい。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
274					・民間企業が参入したことで統制が取りにくい業界になっている。利用者側もたくさん選択できるようになったが、どこがよいサービスを提供しているか比較できない。現実、かなりサービスの差が出ている。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
275					・悪質な事業所もある。サービスの質の向上をどうすればよいか。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
276					・福祉サービスは申請主義。小さな町村だと福祉サービスの周知が弱く、利用者も知らないことが多いのでは。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
277					・小さな町村に頑張れというのも酷な話。市町村ごとということは重々承知しているが、たとえば圏域ごとにしないと、地域間格差がどんどん広がっていく。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
278					・用具の支給について、自治体間で差が生じているため、なんとか差が生じないようにしてもらいたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア
279				○	・地域間格差が生じている。県内どこにいても、同じサービスが受けられるようになるとよい。	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会
280					・障害者手帳の認定基準は70デシベル以上と高い。一方WHOの基準であれば40デシベルであり、40デシベルでもかなり進んだ状態である。国へもデシベルダウンをお願いしているが、国の管轄だから関係ないと思わず、県をはじめ地方自治体においてもデシベルダウンに注力していただきたい。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
281					・人口の少ない地域ほど、福祉サービスは不足しており、地域間格差が生じている。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
282					・記憶障がいにより、勝手に外に出て行ってしまうたり、民家に進入してしまったりすることもあるため、デイサービスの利用を拒否されることが多い。またデイサービスが利用できても、何かあるといけないということで家族が自宅待機しなければならず、働きに行くことができず生活が困窮している。	岐阜県失語症友の会
283					・地域に高次脳機能障がい者を受け入れてくれるデイサービスが必要。人員的に大変なことは承知しているため、受入加算のようなものがあるとよいのではないかな。	岐阜県失語症友の会
284				○	・重度の子の受け入れ先が少ないため、生活介護事業所を充実させてほしい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
285				○	・現行の報酬加算は、単純に看護師が事業所に何人いるかになっているため、楽な利用者を受け入れがちになる。そうではなく、たとえば医療的ケアスコア○点以上の利用者を何人受入れているかで加算すれば、もっと受入れ事業所が増えるのではないかな。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
286					・福祉サービスの質を点検する機関がないため、何か体制があるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
287				○	・親が一時的に倒れた際に、18歳以上になると、特に受け入れ先がないと聞いている。今からとても心配。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
288				○	・動ける医療ケア児(誰かが支えると歩ける、立てる等)は、短期入所に入れない。中間の人たちが入れるところがあるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
289				○	・グループホームの施設への営業が最近すごい。グループホームが増えすぎているのではないかな。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
290					・施設からグループホームに移っても、休日は家族が面倒をみなければいけなかったり、医療的な問題が生じたりして、施設に戻ってくる人も一定数いる。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
291				○	・感染予防も含め、利用者の安全確保がなされていないグループホームがでてきている。運営指導をしっかりと実施していただきたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
292					・職員の負担軽減及びDX化を図るため、介護ロボットやICTを導入している。よい機器であれば何台も導入したいし、事務部分の効率化を図っていきたいと思っている。補助金は活用しているが、自己負担が発生するため、補助率を上げていただけるとありがたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
293					・本来は、利用者との関係をもち、本人の成長を図っていきたいが、配置職員が現在は事業ごとになってしまっているため、事業を行うことが中心となってしまっている。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
294					・事業ごとの報酬体系になっており、ゆとり部分の算定が見られないためやりづらい。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
295					・制度を実施していく上で求められることと、施設としてやっていきたいことの想いの差が生じており、ひいては不適切事案が発生しているのではないかな。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
296					・民間企業が参入できるようになったが、営利目的のところが多い。自分たち社会福祉法人の目的とは異なるのに、一体で見られてしまうのはどうか。目的が違えば、当然中身も違う。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
297					・利用者とのふれあいを削って加算のために書類を作成しているところもある。このままだと仕事の愉しみが分からないままになってしまう。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
298				○	・施設は、くらしの場所であり、安心・安全な場所でないといけない。そういった場所にするのが私たちの使命であると考えている。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
299				○	・ヘルパーが不足している。特に男性ヘルパーが少なく、同性介助が原則となっているため男性利用者が利用できない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
300					・日中支援は単価が低いとため、やっているところが少なく、利用したくても利用できない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
301					・山が多かったり、広範囲だったりとするため地方の事業所は運営が大変。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
302					・地方にいくと事業所が限られているため、利用する側も大変。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
303				○	・施設職員の自閉症に対する知識、理解が薄いため、質がアップするとよい(特に医療的知識)。	岐阜県自閉症協会
304				○	・施設に入所している人が、3ヶ月病院に入院してしまうと、その後は出ていけなくてはならない。自閉症の人にとって、施設は死ぬまで必要。	岐阜県自閉症協会
305					・暴言をはく利用者もおりに対応に苦慮している。虐待防止は言われるが、職員側も疲弊している。	岐阜県精神障害者作業所交流会
306					・グループホームの経営が厳しい。若い職員を採用したいが、高い給与が支払えないため、年金を受給している年配の人を採用している。経営安定するような支援がほしい。	岐阜県精神障害者作業所交流会
307					・身体拘束はいけないとは理解しているが、人格障がいの人に、叩かれることがよくある。職員を守るという意味で、どうするとよいかということをよく考える。	岐阜県精神科病院協会
308					・福祉事業所のデジタル化が課題。	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
309					・報酬改定による経営状況の悪化が課題。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
310					・分野ごとに異なる処遇改善加算の複雑化、事務手続きの煩雑化が課題。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
311					・地域におけるセーフティネット機能を担う入所施設の維持と、利用者ニーズにマッチしたサービスの質・量の確保すべき。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
312					・障がい福祉分野におけるICTの促進すべき。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
313			(4)「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の推進		・就労される人が増えた分、時間がなくピアサポーター活動ができない人が増えた。今は仕事や収入を優先し、グループ活動に重きを置いていない人が多いため、活動力が低くなっている。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
314					・精神疾患のある人が、地域に戻れるかというとなかなか難しいと思う。	岐阜県精神科病院協会
315					・放火や殺人等罪を犯した人を地域に返せるのか。地域も受け入れてくれないのではないかな。	岐阜県精神科病院協会
316			(5)発達障がい児者支援の充実		・最近の親は、やってもらうことが当たり前と思っている人も多い。受け身になっているため、親自身も勉強しないといけない。	岐阜県自閉症協会
317				○	・施設に入所している人が、3ヶ月病院に入院してしまうと、その後は出ていかなくてはならない。自閉症の人にとって、施設は死ぬまで必要。	岐阜県自閉症協会
318				○	・5歳児検診では遅い。3歳児検診にもっと力を入れてほしい。早い時の支援の差がその後に響く。	岐阜県自閉症協会
319					・総合的に診ることができる医師が必要。医師によって質の差が大きい。	岐阜県自閉症協会
320					・自閉症の子はあいまいな指示が分からない。自閉症の子に伝わりやすい工夫をしていただきたい。	岐阜県自閉症協会
321				○	・一時的に子どもが家へ戻ってきたが、既に子どもの方が体が大きく、トイレの支援等が大変だった。施設を出されたら生きていけない。	岐阜県自閉症協会
322				○	・自閉症に特化した施設があるとよい。	岐阜県自閉症協会
323					・子どもが、自閉症とは言われず「自閉的な傾向がある」と診断された。だが、何をすればよいか分からなかった。	岐阜県自閉症協会
324				○	・医療、教育、福祉、そして親の4者で取組を推進する必要がある。	岐阜県自閉症協会
325			(6)高齢障がい者への支援の充実		・65歳問題。障がいと介護、どちらのサービスを優先するのか市町村によって様々。地域間格差が生じている。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
326					・65歳になると自動的に介護保険に切り替えてしまう市町村があるため検討してもらいたい。	一般社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会・ 社会福祉法人岐阜アソシア

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
327					・一般的なデイサービスでは、手話ができるスタッフがほとんどいないため、行きたがらない高齢者が多いと聞いている。ろう高齢者向けのデイサービスや元気なろう高齢者が集まれる場所があるとよい。世間の理解が必要だが、そんな場所があれば、ろう高齢者の寿命が延びるのではないか。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
328					・ろう高齢者向けの入所施設を開設することは金銭的に困難な面があると思うが、できれば家族も会いに行きやすい街なかにあるとよい。	一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会
329					・近年、認知症を発症した等を理由に福祉から介護サービスへ切り替え、介護施設へ移動する人がでてきている。そういう人たちも加算対象になるとよい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
330					・障がい者と高齢者は異なる。介護支援専門員ももっと障がいについて学び理解していただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
331					・障がいから介護へ移行する際は、1～2年ぐらいこれまでの相談支援員と一緒にケアプランを作成することができれば、これまでの状況を引き継ぐことができ、本人にとってよい支援ができるのではないか。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
332					・障がいのある人が、入所するのであれば高齢者施設側のやり方に合せて!というような施設が大半。それでは入所させられない。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
333					・障がいを持つ高齢者（65歳問題）への対応を検討する必要がある。障がい福祉と高齢福祉の連携状況や相互乗り入れ具合を県においても状況把握してほしい。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
334					・障がい者の高齢化に対する支援の強化をすべき。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
335					・縦割りではなく、横断的支援の強化をすべき。（特に障がい～高齢）	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
336	2 身近な 相談支援 体制の確立	(1) 相談支 援従事者の 養成、確保 及び質の向 上		○	・頸髄損傷者の多くは、社会資源を活用し、居宅系の福祉サービスが使用できれば一人暮らしができるが、相談支援専門員は、施設入所を勧める傾向にある。自分たちは自宅で生活したいと思っている。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
337					・最近、長時間みてもらえるところが選ばれる傾向にあるが、それは親の希望であって、本人の希望ではないのではないか。相談支援の人も、本人ではなく親の希望を聞いているのではないか。本当にそれでよいのか少し疑問に思う。	一般社団法人岐阜県知的障害者 支援協会
338					・相談支援従事者は、一人で多く担当しているため、質の向上と言われても正直困るところがある。充実＝相談員の仕事が増えるというのはいかがなものか。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
339					・相談支援従事者研修の受講者は年々増えている一方、事業所は増えていないため、なぜ状況が改善されないのが疑問。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
340					・相談支援事業所は単体で運営してもやっていけないため事業所が増えない。また相談支援員の給与は長年やっても増えないと聞いている。	岐阜県障害福祉事業所連絡会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
341					・相談支援専門員の一人あたりの担当が多いこともあり、相談をしたくて電話をしてもなかなかつながらない。困っていても当てにならない。	特定非営利法人岐阜県精神保健 福祉会連合会
342				○	・相談支援専門員の質が低下しており、向上させる必要がある。また、人材も不足しているため、増やす必要もある。	特定非営利法人岐阜県精神保健 福祉会連合会
343			(2) 専門性の高い相談支援事業の実施		・障がいのある子を育てている親は、どこに相談して、どこに頼めばよいのか分からない人が多い。ワンストップ的な仕組みができるとよい。また障がい者総合相談センターの役割をもっとアピールできるとよい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
344					・中途失聴や、片耳のみの失聴について、相談にのってもらえるところがあるとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
345					・本当に困っている高次脳機能障害の人（重度の人）たちが相談するところもなく、行き場もないのが現状。	岐阜県失語症友の会
346					・高次脳機能障害者支援センターは、医師がいるところだと診断だけになってしまうのではないかと。そうではなく、在宅支援ができないといけない。診断だけして終了ではなく、自治体につなげたり、その後どうなったかの後追いをしたりする等地域に返して生活する仕組みづくりが必要。そのため、地域包括支援センターが適しているのではないかと。	岐阜県失語症友の会
347				○	・医療、教育、福祉、そして親の4者で取組を推進する必要がある。	岐阜県自閉症協会
348			(3) 地域における相談支援体制の強化		・障害福祉サービスは、地域によって差が生じている。少ないところでは、運営体制に疑問がある場合でも、頼らざるを得ないのが現実。安心できる施設が必要であり、指導を厳しくする等が必要。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
349					・誰に相談してよいか分からない人が多い。窓口が分かりやすいとよい。	特定非営利法人岐阜県精神保健 福祉会連合会
350					・以前自己破産をした利用者がいたが、自己破産する前に、市にも社協にも相談しに行ったが、お金があるうちは何もできないと断られ、最終的に自己破産となった。これまで何かあれば社協に相談をという案内をしていたが、どうしたものか。	岐阜県精神障害者作業所交流会
351					・親がいるうちは、親が動いてくれるし、家族会があるところは家族会が支えてくれるが、そうでない人はどこに相談すればよいのか。相談できる機関・人が必要。	岐阜県精神障害者作業所交流会
353						
354	3 福祉人材の確保支援と育成	(1) 福祉人材確保対策の総合的な推進			・障がい福祉制度開始時は、ここまで規模が大きくなるとは思っておらず、人材養成システムまで考えていなかったのではないかと。人材を確保する必要もあるし、人材の質も向上させる必要がある。そのあたりをどう取り組むか、どう事業を起こすか検討する必要がある。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
355					・規模が大きくなれば、人も配置していかなければならないが、現在は自転車操業的に対応している。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
356					・障がい福祉分野に若い人が就職するようにならない。そのためには、魅力ある職場ということ をPRしなくてはならない。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
357					・福祉の人材不足について、養成段階にも要因があるのでは。アンケートを実施し、状況を把握するとよいの では（今年度の実施が困難な場合は、次年度以降の実施でも可）	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
358					・障がいのある人を支援する人への支援も強化する必要がある。人材不足に対する取組があるとよい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
359				○	・重度訪問介護の時間数を増やしたいと思っても、ヘルパーが不足しており難しそうな感じ。重度であればある ほどサポートが必要であり、ヘルパー不足で特に困るのは自分たちである。ヘルパー不足解消に取り組ん でいただきたい。	頸髄損傷者連絡会・岐阜
360					・受入れ先が少ないのは、人材不足という面もあると思う。人材育成をもっとしていただきたいし、日本人が 難しいというのであれば、積極的に外国人看護師・介護士を受け入れてほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
361					・保育士が不足しており、処遇改善が必要。また、保育のおもしろさを体験できると就業につながるのではない か。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
362					・特に山間地域では人手不足が生じている。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
363					・外国人を頼らざるを得ず、特定技能の受け入れを行っているが、日本人職員が増えない限り、さらに特定 技能を増やすことができないため（受け入れ人数は事業所単位で日本人等常勤職員数を超えない数まで となっているため）、日本人職員の確保も必要。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
364					・自治体が国や都市と介護人材に関する協定等を締結しているケースがあると聞いている。難しい面もある と思うが、人材確保のために、自治体が動いてもよいのではないか。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
365				○	・自閉症や強度行動障がいの人は、集団生活は難しいが、一人暮らしであればできることが多い。そうなる と、ほぼ24時間体制の支援が必要になるため、ヘルパーを養成する必要がある。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育 成会
366				○	・福祉友愛プール・アリーナを充実してもらっても、中山間地域に住んでいる人からすれば利用できないため 何も関係ない。それよりも、地元のスポーツセンターの利用料の無償化や（重度の人は必ずヘルパーを同伴 させてないといけないため）ヘルパーの確保に取り組んでいただきたい。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育 成会
367					・強い想いをもって入職しても、業務的なことが中心となり、利用者との関わりが少ないため、ジレンマを感じ 退職する職員も多い。	一般社団法人岐阜県知的障害者 支援協会
368					・10年後に中心となってくれるような職員が集まらず困っている。少し育つと条件のよい職場に転職してしま う。	一般社団法人岐阜県知的障害者 支援協会
369					・外国人介護職員は、仕事だけでなく、休日を含めた日常生活支援をしなければならず大変な面がある。ま た、東京や大阪等都会にある事業所へ転職してしまうため定着が難しい（地方は好まれない）。	一般社団法人岐阜県知的障害者 支援協会
370					・外国人同士の情報網があるため、情報があるとすぐいなくなってしまう。	一般社団法人岐阜県知的障害者 支援協会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
371					・現行制度は資格の有無や研修受講によって報酬がアップするが、何を持っての専門性か。測れないところではあるが、本来の専門性が評価される仕組みになるとよい。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
372					・職員内で待遇の差が生じている。有資格者だけが仕事をしているわけではなく、いろんな職務の人が利用者を支えている。	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会
373					・待遇が悪く、賃金が低いため、若い人の就職希望がない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
374					・福祉分野に就職しても、家計のことを考え、結婚や出産を機に、退職する職員も多い。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
375					・福祉学科の入学者は定員の7割程度しかおらず定員割れを起こしている。また福祉学科に入学しても福祉分野に就職する職員は2割程度。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
376					・高齢者施設運営法人は、比較的規模が大きいところが多いため、インターンシップの受入れ等ができるが障がい分野ではなかなかできない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
377					・社協でも就職フェアを開催してくれているが、来場者が少なく、魅力を伝える機会がない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
378					・福祉業界の社会的位置づけを上げる必要がある。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
379					・外国人介護職員は、費用もかかるし、採用までに労力もいるため、困難。また、人的余裕がないため、育成もできない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
380					・高齢者施設は介助が中心となるため、外国人介護職員でも対応可能だが、障がい者施設は声掛けが難しく対応はなかなか難しいと思われる。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
381				○	・ヘルパーが不足している。特に男性ヘルパーが少なく、同性介助が原則となっているため男性利用者が利用できない。	岐阜県障害福祉事業所連絡会
382				○	・相談支援専門員の質が低下しており、向上させる必要がある。また、人材も不足しているため、増やす必要もある。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
383					・サービス管理責任者は、仕事に対して報酬が低すぎるため、辞めてしまう人が多い。処遇改善が必要。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
384					・サービス管理責任者や相談支援専門員は、つながりが少なく、孤立しがちなため、圏域ごとに各専門職が集まれる場があるとよい。また、研修を開催する場合は、地域ごとで取り巻く環境が異なるため、圏域・地域ごとで実施してもらいたい。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
385					・人材不足が慢性化しており、どこの事業所も人材確保に四苦八苦している。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会
386					・地域移行、地域定着をやりたいと思っても、人材が足りないがゆえに手を回せない。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
387					・子育て世代はパートで働き、子どもが大学生となると仕送りが必要になるため正職員として働く人が多い。子育て中はやむを得ないところはあるが、看護師が不足している。また50代頃から正職員になったとしても経験値が乏しく、夜勤も嫌がるため十分な戦力になりきれない。	岐阜県精神科病院協会
388					・看護師の紹介会社は、高額な手数料がかかるため、なかなか利用できない。	岐阜県精神科病院協会
389					・福祉事業所職員の人材不足（仕事があっても断られる）が課題。	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
390				○	・専門的人材の不足、慢性的な人材不足が課題。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
391					・施設側も人手不足により、スポーツ施設等に連れて行ってあげられないと言っている。	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
392			(2)障害福祉サービス等を担う専門的人材の育成と資質の向上		・介護福祉士は、身体に特化した、介護技術が中心の養成プログラムになっている。そのため障がい福祉分野でいくと、身体障がい者施設が実習の場となっている。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
393					・保育士は、知的関係の施設に就職する人が多い。子ども向けだけでなく、成人向け施設も多い。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
394					・現在は、身体は介護福祉士、知的は保育士、精神は精神保健福祉士が中心となっているが、高齢障がい者も増え、複合的な特性をもつ方も増えているため、横断的な支援が必要になる。養成については、分野横断的な養成が必要になるのではないかな。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
395					・外国人介護福祉士が、障がいのある人に対し、横断的な支援ができるかという点は何とも言えないが、実際やっている方はいる。そうであるのであれば、養成段階から対応できるとよいのではないかなとも思う。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
396					・介護福祉サービスを充実させるには、人材が必要であり、そのためには人材養成が必要。	中部学院大学 人間福祉学部 打保 由佳 特任准教授
397					・外国人介護職の人が増えてきているが、「言ったことをやってくれない」や「言葉が通じない」等の苦情をよく聞く。	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
398					・近年、コミュニケーションツールが増えてきたため、機器を使いこなすことで普通の人と同じような生活を送れるようになってきているが、機器を使えない環境になった時が心配。最終的には、人的支援が必要であり、人材育成が必要。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
399					・盲ろう者通訳介助者の時給1,600円であるが、手話通訳者は時給2,100円と高い。その他にも同行援護があり、盲ろう者通訳介助者養成講座の受講者が、報酬をもってどの業務に従事するか選択するようになると困る。時給について今後検討していきたい。	岐阜盲ろう者友の会
400				○	・地域移行が進められているが、在宅での介護を推進するのであれば、レスパイト施設は必須。また、ヘルパーの質の向上も必須。現状は、夜中に自宅へ入れることを嫌がる人も多い。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
401				○	・先生や福祉職員の中にも、障がいのある人に対し、悪気なく上から目線の発言をする人が多い。それは対等にみていないからだ。障がいのある人も同じ人間として尊重されるべきであり、意識改革が必要。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
402					・かつては、ことば教室等が開設され親子共々しっかり指導してもらえていたが、放課後デイサービスは預かるだけのところが多く、今は指導が少なくなっている。小さな頃であれば理解できるため、しっかり指導できる人、指導する環境が必要。	一般社団法人岐阜県手をつなぐ育成会
403				○	・施設職員の自閉症に対する知識、理解が薄いため、質がアップするとよい(特に医療的知識)。	岐阜県自閉症協会
404				○	・専門的人材の不足、慢性的な人材不足が課題。	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
405				○	・強度行動障がい支援の専門的人材の育成の強化すべき。(研修費用の補助、県内における実地研修施設への補助など)	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
406		4 生活支援に係る各種制度等の活用促進	各種手当制度や割引・減免制度の周知徹底		・障がい者福祉の手引きは、全ての障がいに対応しているため、量が多く見づらい。たとえば岐阜市の「take it easy」や精神保健福祉センターの「メンタルヘルスガイドブック」のように、障がい種別ごとであると使用しやすい。また、やむを得ない部分ではあるが、最終的には「各市町村へお問い合わせください」となっており、問い合わせると「当市ではやっていない」と言われたりする。そうすると気持ちが滅入る。	特定非営利法人岐阜県精神保健福祉会連合会
407					・精神障害者保健福祉手帳は2年に1回更新が必要だが、かつて不破郡は更新案内がなく失効してしまうケースがあった。現在は、声をあげたことにより、更新案内がされるようになったが不親切だ。	岐阜県精神障害者作業所交流会
408	IV 質の高い保健・医療提供体制の整備	I 障がいの原因となる疾病等の予防・早期発見・治療体制の充実	各種検診の受診勧奨や保健指導、心の健康づくりの推進		・近年、スマホ等の普及(Bluetoothやヘッドホン等の使用)により若い人の難聴が増えてきている。内耳が破壊されたら回復できないため、危険性をもっとアピールするべきだ。	特定非営利活動法人ぎふ難聴者協会
409					・5歳児健診について、国は2028年度までに実施率100%を目指すとしているが、目標値ありき。現場はついていけない。スクリーニングだけやって、その後のフォローアップがないと親としては心配。フォローアップ体制を整えてから健診を推進していくべきではないか。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
410					・5歳児健診で、判定された親への支援のあり方は検討が必要。ペアレントトレーニングを行う前に、まずは判定された親同士が交流し考え合える場が必要なのではないか。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
411				○	・5歳児検診では遅い。3歳児検診にもっと力を入れてほしい。早い時の支援の差がその後に響く。	岐阜県自閉症協会
412					・自殺やいじめ等の普及啓発が必要と考える。愛知県では学校へピアサポーターや精神保健福祉士を派遣していると聞いており、岐阜県においても学校へのアプローチを考えてもらえるとありがたい。	岐阜県精神保健福祉協会 福祉専門委員会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
413		2 障がい 児者に対す る医療と福 祉の連携に よる支援の 充実	(1) 保健・ 医療体制の 充実		・障がいのある人の寿命が延びてきたことにより、ガン等これまで想定していなかった病気を患う人が増えてきたため、小児科だけでなく、もう少し幅広い医療の参画者が必要と感じている。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
414					・家にいる障がいのある人は、病院に行かない人も多いと聞いている。健康管理も必要であり、自分のことを大事にしてほしい。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
415					・高次脳機能障害は大抵精神科に行くしかないが、精神の病気ではないのに!と思う気持ちがある。	岐阜県失語症友の会
416					・高次脳機能障害について、一人でも多くの悩める県民を救っていただきたい。法案はできたが、形だけで終わってはならない。プランにおいても具体的な施策が示されるとよい。	岐阜県失語症友の会
417					・医療保険のリハビリは日数制限があるため、介護保険で受けられないとリハビリ難民になってしまう。	岐阜県失語症友の会
418					・家族としては、リハビリを受けさせ少しでも回復させたいと思っているが、遷延性意識障がい者に対し、やってもらえるリハビリ(療法・回数)は限られており、なぜ受けさせてもらえないのかという思いでいる。	東海地区遷延性意識障害者と家 族の会「ひまわり」
419					・口腔衛生管理加算がとれるようになったが、歯科衛生士を雇っている障がい者福祉施設は少ない。高齢者だけでなく、障がい者にとっても口腔ケアは重要であり、歯科医師会とも連携しながら、施設へのアプローチに取り組んでいただきたい。	岐阜県身体障害者福祉施設協議会
420			(2) 療育体 制の充実		・障がいの特性によっては、希望しても就園できずに、就学する子もいる。幼児期の仲間との交流、理解はとても大切。	岐阜県言語障害児をもつ親の会
421					・希望が丘こども医療福祉センターの利用したいと思っても、医師も少なく、リハビリも手薄になっており、希望どおりに利用できない。	岐阜県重症心身障害児(者)を守 る会
422			(3) 強度行 動障がい支 援体制の充 実	○	・強度行動障がい支援の専門的人材の育成の強化すべき。(研修費用の補助、県内における実地研修施設への補助など)	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
423			(4) 重度障 がい・医療 的ケア児者 支援の充実		・令和9年4月に改正医療的ケア児支援法が施予定と聞いている。未確定ではあるものの、より高いものが求められるようだ。第5期プランにも盛り込んでいただきたい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
424					・児から者への移行は、丁寧に対応していかなければならない。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
425					・県の方で、医療的ケア児等コーディネーターの養成は行ってもらっているが、今一つ浸透していない。NICUや小児科から地域に戻るために重要な役割を担う人であり、制度の周知を行っていただきたい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
426					・15歳までは小児科を受診できるが、16歳以上になると一般医療機関への移行を促される。県内には障がいに特化した医者がおらず、一般的な開業医では対応してもらえないことが多いため、医療機関を探すのが大変(内科と精神科等複数の医療機関が必要)。	岐阜県特別支援学校PTA連合会

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
427					・診断書等の書類を作成してもらわないといけないが、作成してもらえる医療機関を見つけづらい。現状は、先輩ママから情報を得ているが、どこかで対応してもらえる医療機関の情報が得られるとありがたい。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
428				○	・グループホームは、形式的には医療的ケアが必要な人や重度の人も入居できるとされているが、実際は受け入れてもらえないことが多い。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
429				○	・グループホームに入居していても、途中で医療的ケアが必要となると退去しなければならず、親も困ってしまう。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
430				○	・短期入所も2・3歩でも歩けると断られてしまうため、なんとかしてほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
431				○	・親自身がしっかりしているうちに、親なき後どうするとよいのか、勉強し自分が分かった上で、手続きする必要がある。親に対しても、早めの準備・勉強が必要であることを周知してほしい。	岐阜県肢体不自由児者父母の会連合会
432				○	・重度の子の受け入れ先が少ないため、生活介護事業所を充実させてほしい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
433				○	・現行の報酬加算は、単純に看護師が事業所に何人いるかになっているため、楽な利用者を受け入れがちになる。そうではなく、たとえば医療的ケアスコア〇点以上の利用者を何人受入れているかで加算すれば、もっと受入れ事業所が増えるのではないか。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
434				○	・親が一時的に倒れた際に、18歳以上になると、特に受け入れ先がないと聞いている。今からとても心配。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
435				○	・特別障害者手当と障害者年金で重度の人であれば、資金的には生活できる。一方2級では働かないと賄うことができない。親なき後、生活できるような仕組みになるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
436				○	・動ける医療ケア児(誰かが支えると歩ける、立てる等)は、短期入所に入れない。中間の人たちが入れるところがあるとよい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
437					・市町村によって、災害時等非常用電源が補助対象となるところとならないところがある。地域間差をなくしていただきたい。	岐阜県重症心身障害児(者)を守る会
438					・遷延性意識障がい者は、高度な医療的ケアが必要。喀痰吸引や胃ろう、体位交換等、誰かが24時間みていないといけない。介護をする家族も休みが必要なため、レスパイト施設の充実や安心してお願いができる医療的ケアができるヘルパーの養成・定着をお願いしたい。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
439					・現行は、安心して施設に預けられないから在宅で介護している人も多い。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
440				○	・地域移行が進められているが、在宅での介護を推進するのであれば、レスパイト施設は必須。また、ヘルパーの質の向上も必須。現状は、夜中に自宅へ入れることを嫌がる人も多い。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」
441					・レスパイト施設の必要性はこれまでも伝えてきたところ。見学の調整は行うため、実際状況をみてもらいたい。	東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
442			(5)難病患者・小児慢性特定疾病児童支援の充実	○	・地域間格差が生じている。県内どこにいても、同じサービスが受けられるようになるとうい。	特定非営利活動法人岐阜県難病 団体連絡協議会
443			(6)難聴児支援の充実		・難聴児支援センターと福祉・教育への接続に、もう少し工夫の余地があるのではないか。医療的な面では機能していると思うが、福祉・教育分野までの動きが見えないため、合同研修等他職種連携できるような仕組みがあるとよい。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
444					・難聴の人がどこに困るのか、どんな配慮が必要なのか、難聴児支援センターから発信しているのかもしれないが、伝わっていない。保護者の不安をなくすような支援が必要。	岐阜聖徳学園大学 教育学部 安田 和夫 教授
445					・単純な難聴児だと、受給者証が出ないため、放課後デイサービスを利用できない。岐阜市の場合だと、未就学児は、みやこ園についてしか紹介してもらえず、他に受け皿がない。	岐阜県特別支援学校PTA連合会
446	3 リハビリテーション体制の整備	地域リハビリテーションの充実		・病院退院後もリハビリは必要だが、県内の言語聴覚士は300人もいない。また、養成課程のある県内の大学・専門学校も少なく、勉強が大変なため途中であきらめてしまう人も多いと聞く。リハビリの需要に対応するためにも、言語聴覚士の養成、確保が必要。	岐阜県失語症友の会	
447	その他プランに関すること				・第5期プランは、少しでも次につながるような見通しが記載できるとよい。そうすれば次の人も取り組みやすくなる。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
448					・これまでは、好事例を展開するということが多かったが、皆が同じようにできるというわけではない。新しいものを生み出す種を育てられるよう、新しい取組にチャレンジしていただきたい。	岐阜大学 教育学部 池谷 尚剛 名誉教授
449					・本当に成果があったのか、費用対効果はどうだったのか等可視化できるとよい。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
450	その他の意見				・県予算も限られており、どこに注力するかという面もある。各障がい福祉団体がそれぞれの主張をすることも重要だが、相互理解をもって進めていけるともっとよくなるのではないか。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
451					・障がい福祉団体内の考えが継承できるよう、次世代の代表となる人材を団体内で育てていけるとよいのではないか。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教

	プラン項目			再掲 状況	団体意見	団体名・関係機関
	施策 (大分類)	中分類	小分類			
452					・学校や短期入所等に提出する書類の項目は重複している場合が多い。親は何度も同内容の書類を作成しないといけないため、オンラインでデータを一括管理・利用できるようなシステムが構築できるとよいのではないか。	岐阜大学大学院医学系研究科 山本 崇裕 助教
453					・社会全体が余裕のない状態になっている。そんな余裕のない社会の中で、どうするとよいかを検討していく必要がある。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
454					・現在、「次は何をしてもらえるのか」等、障がいのある人が受け身の姿勢になってしまっている。そうではなく、障がいのある人自身が、当事者として何とかしなければならないという気持ちで何事も取り組まないといけない。その受け身のスタンスが会員の減少にもつながっている。	一般財団法人岐阜県身体障害者 福祉協会・ 岐阜県脊髄損傷者協会
455					・会員は高齢者が多いため、パソコン作業ができる者がほとんどいないため、事務作業に苦慮している。他の福祉団体も同様の悩みを抱えていると思われるため、パソコン部分での支援があるとよい。	岐阜睦声会
456					・若い人に知ってもらうためには、インスタやX、ホームページのリニューアルが必要と考えるが、IT知識が乏しいため、怖くてできないという面もある。現メンバーではなかなか対応が難しいため、基礎から教えてもらえる福祉団体向けの研修や得意な人に、サポートしてもらえるような体制があるとよい。	岐阜盲ろう者友の会
457					・公的施設の会議室は、1ヶ月前からしか予約ができない。定例会等を開催する場合、介助者や動線を確保するためある程度の大きさの部屋が必要となり、開催案内をするにしても点字等の準備が必要となり周知にも時間がかかるため、1ヶ月前では厳しい。福祉団体だけ特例的に早めに予約できるようにしていただきたい。	岐阜盲ろう者友の会
458					・要介護認定は、認知症とADLが基本となっており、コミュニケーションに重きがおかれていないため、失語症者は認定を受けづらい。失語症者は、言いたいことの半分ぐらいしか言えなかったりするため、認定する際にコミュニケーション部分をもっとみてほしい。	岐阜県失語症友の会
459					・地域によって、警察や行政の対応が異なる。家族は困っている状態であり、動いていただきたい。	特定非営利法人岐阜県精神保健 福祉会連合会